

# 研究力強化に資する 大学・研究機関ネットワーク の構築とその活動

『大学研究力強化ネットワーク』

自然科学研究機構・研究力強化推進本部

特任教授

小泉 周

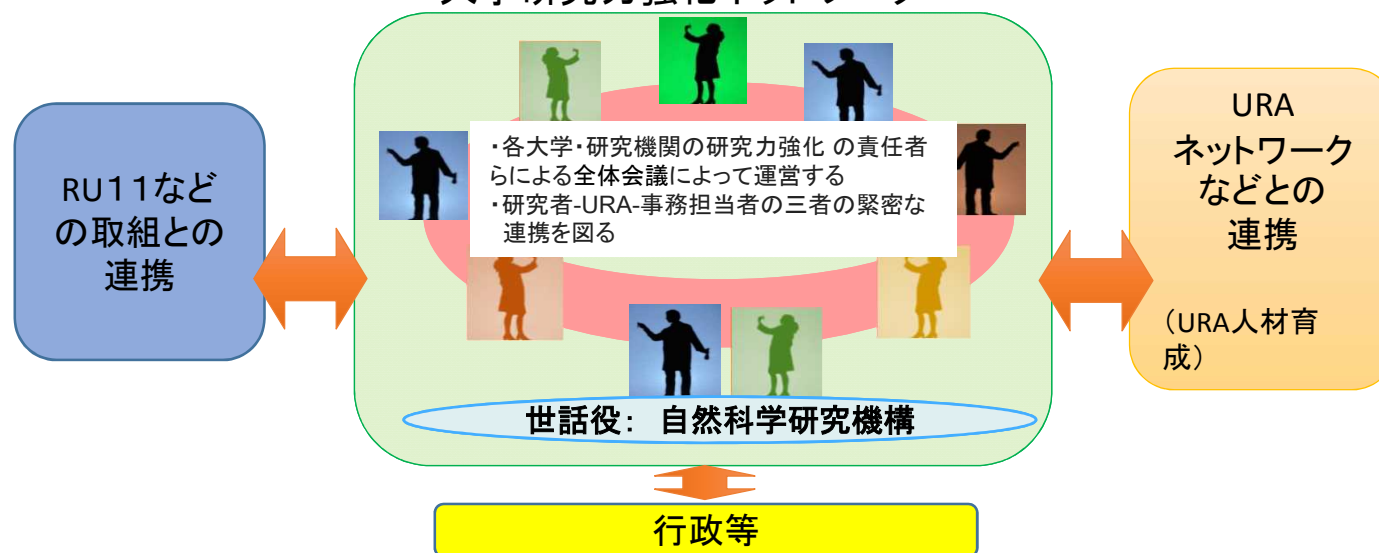
# 大学研究力強化ネットワーク

大学の研究力強化・支援機能の拡大を図る

## 趣旨

大学の研究力の向上により、イノベーションの加速、地域社会との連携、経済の発展への寄与が期待されているところである。本ネットワーク参加大学は、研究大学としての基盤を強固にすることはもとより、研究大学としての力を結集し、先導して日本の大学の研究力を一層高めていく責務を負っている。そのためには、より良い研究環境を整備し、そのパフォーマンスを最大化することが求められている。各大学の個性・特徴を尊重しつつ、研究者・リサーチ・アドミニストレーター（URA）・事務担当者の三者の緊密な連携のもと、大学・研究機関の枠をこえて、大学の研究力強化および支援機能の拡大を図る方策に関する議論と情報交換を行う必要がある。「共同しておこなうべきところは共同で行う」という発想のもと、相互の連携の推進を図り、また、必要な施策について行政等に働きかけるなど、個々の大学の研究力強化に資する“大学研究力強化ネットワーク”を設立した。

## 大学研究力強化ネットワーク



# 大学研究力強化ネットワーク構想

## 組織

### <構成機関>

文部科学省「研究大学強化促進事業」(22機関)に採択された機関を中心として、既に「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」事業に取り組んでいる機関(15機関)など、大学の研究力強化を推進する機関に呼びかけ、賛同を得られた機関で構成する。

### <全体会議>

“大学研究力強化ネットワーク”には、各機関における研究担当理事または研究力強化に責任を有する者等(1名ずつ)による『全体会議』を置き、ネットワークの運営を総括し、共通する課題について討議し、必要に応じて政策提言などに結びつける。

また、全体会議の運営、そのために必要な経費等は、原則として自然科学研究機構によって担われるが、運営に関するアドバイザリーボードとして、5-6校程度の運営委員(当面、任期は2年程度を想定)による運営委員会を設置する。

第一期運営委員：岡山大学、熊本大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、自然科学研究機構

### <タスクフォース>

また、研究力強化に関する具体的な取り組みについては、テーマ別のタスクフォースを置き、参加機関間で協議・連携する場とする。個々のタスクフォースは原則2年程度の期間を定めて設置される。

- (1) 海外拠点を活用し国際プレゼンス向上・国際連携を促進するためのタスクフォース
- (2) 国際情報発信に関するタスクフォース
- (3) URAの人材交流・キャリアパスに関するタスクフォース
- (4) コンプライアンスに関するタスクフォース
- (5) 大学ランキング指標タスクフォース

### <メーリングリスト>

参加機関間での情報交換を円滑に行うため、メーリングリストを整備する。

### <プラットフォーム>

自然科学研究機構や参加校が整備した共同利用できるツールやプラットフォームをネットワークで共有する。

- (1) 国際情報発信に関するプラットフォーム

# 大学研究力強化ネットワーク

大学の研究力強化・支援機能の拡大を図る

第二回全体会議



北海道大学  
筑波大学  
千葉大学  
東京医科歯科大学  
東京農工大学  
電気通信大学  
新潟大学  
金沢大学  
福井大学  
信州大学  
名古屋大学  
名古屋工業大学  
豊橋技術科学大学

神戸大学  
岡山大学  
広島大学  
山口大学  
九州工業大学  
熊本大学  
奈良先端科学技術大学院大学  
自然科学研究機構  
高エネルギー加速器研究機構  
情報・システム研究機構  
首都大学東京  
東京女子医科大学

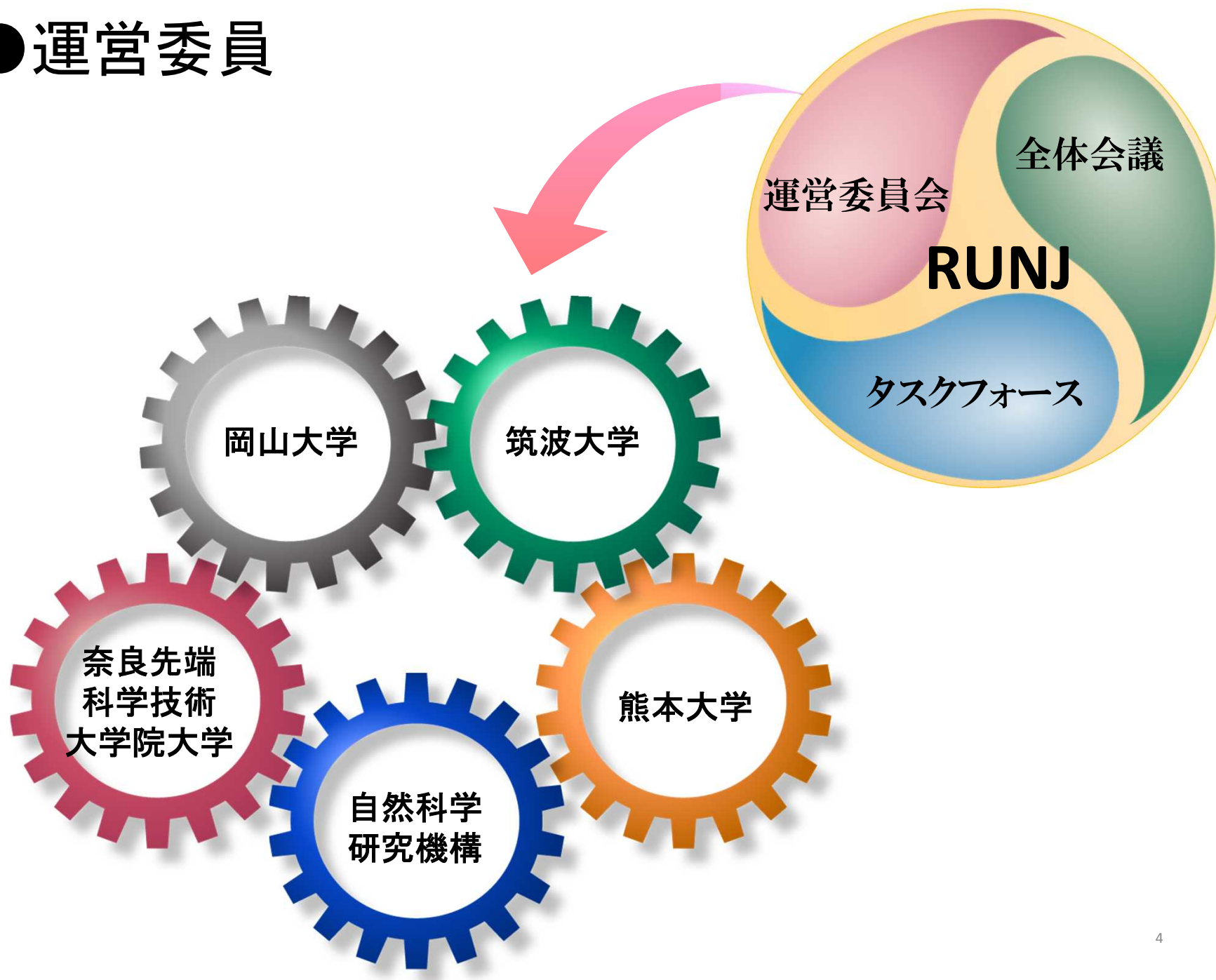
<http://www.runetwork.jp/>

第一回カンファレンス



AAASとのミーティング

## ●運営委員





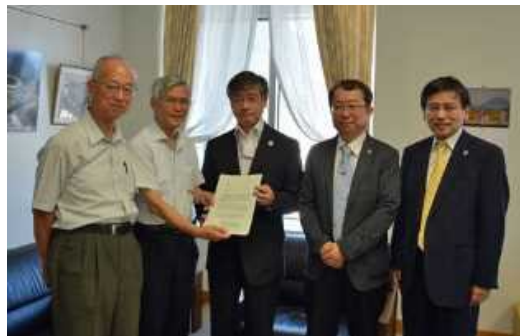
# ●全体会議：研究大学の現状とその課題

## 「我が国の大学等における研究力強化のために(提言)」について

大学研究力強化ネットワーク全体会議における我が国の大学等が抱える課題等に関する議論を踏まえ、平成27年6月、「我が国の大学等における研究力強化のために(提言)」を取りまとめ。

本提言において、研究大学が直面する現状を総括し、我が国の大学等における研究力を強化するために必要な以下の対応について提言。

- 研究教育の基盤整備に必要な財政支援
- 先端研究設備の共同整備及び技術専門家の確保、そのための大型競争的研究資金の活用
- 若手研究者の安定的な確保及び支援
- URAの安定的な確保のための環境整備
- 科学研究費補助金の拡充及び全面的な学術研究助成基金化



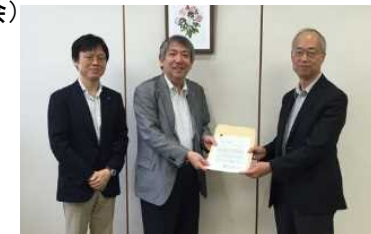
(文部科学省)



(内閣府)



(日本学術振興会)



(科学技術振興機構)

本提言と併せて、本ネットワーク構成大学等における研究の強みを各機関ごとに整理し、行政や研究資源配分機関に対して説明。

# ●国際連携に関するタスクフォースの活動

(幹事校: 自然科学研究機構)

## 『国際連携に関するタスクフォース』の活動

(幹事校: 自然科学研究機構)

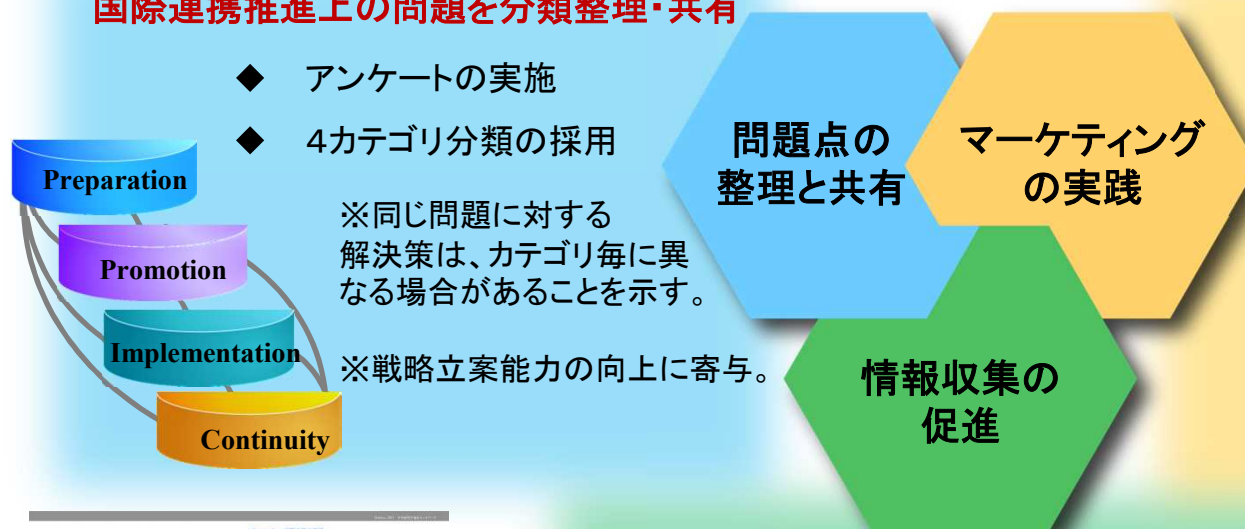
＜実践的トレーニングを含めた国際連携促進のための三本の柱＞

### 国際連携推進上の問題を分類整理・共有

- ◆ アンケートの実施
- ◆ 4カテゴリ分類の採用

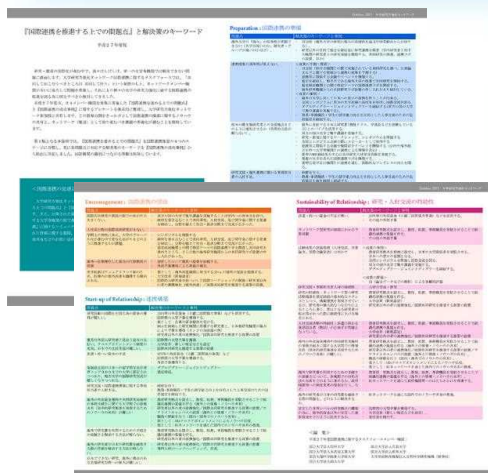
※同じ問題に対する  
解決策は、カテゴリ毎に異  
なる場合があることを示す。

※戦略立案能力の向上に寄与。



### JSPS渡日プログラム説明会を活用 (JSPSと連携した取り組み)

- ◆ 説明会全体の企画立案に寄与
- ◆ エレベーターピッチ法の実践
- ◆ マッチングブースの開設



### コミュニケーション窓口“Gateway”の開設

- ◆ 海外の研究者・研究機関とのコミュニケーションの促進
  - 大型研究費申請のパートナーシップ(e.g., HORIZON2020)
  - 共同利用施設の照会、研究技術・資料の探索
  - シンポジウム開催、ほか
- ◆ 国内ネットワーク内での情報・スキル共有の促進



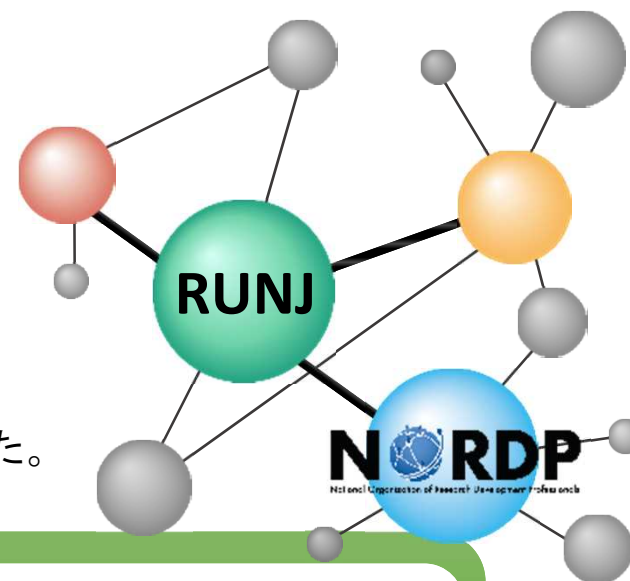
## ●国際連携に関するタスクフォースの活動

### Research University Network goes to NORDP !

全米の大学マネジメント専門職によるネットワーク

NORDPの2016年年会に、

『日米間の専門職連携の促進』を提案し、採択されました。



#### TITLE

Communication “Gateway” accelerates Global Research Development

8<sup>th</sup> Annual NORDP Research Development Conference

May 23-25, 2016 • Orlando, FL

<http://www.nordp.org/conferences>

<本件お問合せ>

[office@runetwork.jp](mailto:office@runetwork.jp)



## (参考) 国際連携を推進するうえで重要な能力

---

### 立ちはだかる壁

客観性



論理性



柔軟性



創造性



# (参考) 国際連携の問題点を解決する為には情報の論理的整理が重要

POINT : 研究連携構築の4ステージ毎に問題点を整理する

例) 資金問題 → ステージ毎に申請する資金が異なる。  
技術問題 → 求める参考事例、受講する講習会が異なる。



- 海外大学・研究機関の強みを把握するには？
- 連携成果の具体的イメージは？
- 交流機会を増加させるには？
- 資金・人材



- 研究者の気持ちを刺激する方法は？
- 連携の拡がり(分野・国)を見出すには？
- 資金・人材



- 海外の競争的資金申請・各種手続きのノウハウ共有？
- 支援体制・制度の整備はどうやって？
- 資金・人材

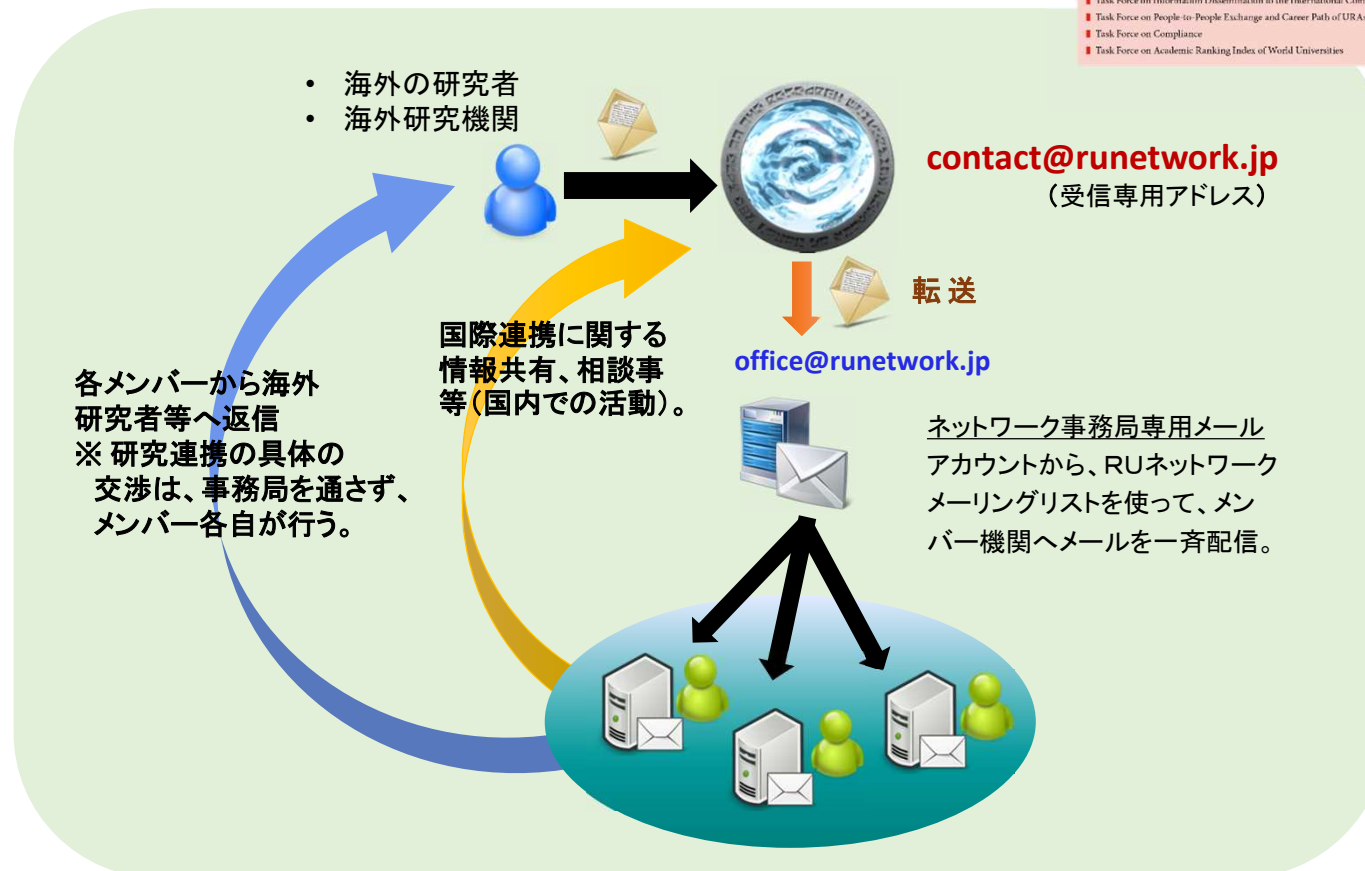


- 活動成果の評価指標は？
- 海外の競争的資金申請・各種手続きのノウハウ共有？
- 『窓口』を継続させるには？
- 資金(安定資金、ネットワーク型研究の継続)・人材



# (参考) 国内外の情報流通を加速する

How do we build an international bridge between Japanese and foreign research?



## About RU Network JAPAN

The Research University Network of Japan (RU Network Japan) is an organization formed on a voluntary basis by universities and research institutes (current member organizations are printed on the back cover) that address research enhancement. We strongly promote collaboration with funding, government and private agencies beyond organizational borders, as well as further enhance the research capabilities of Japan by strengthening the research capabilities of each university and research institute and improving the support system for the research environment. Operation of the network is managed by the general meeting consisting of executive directors in charge of research or their alternate representatives at each member university or institute.

Five task forces by themes are set up for promotion of collaboration within members through discussion and intelligence sharing.

- Task Force on International Collaboration
- Task Force on Information Dissemination to the International Community
- Task Force on People-to-People Exchange and Career Path of URAs
- Task Force on Compliance
- Task Force on Academic Ranking Index of World Universities

## Enhancing International Collaboration

Improving mutual communication between RU Network Japan members and international research institutes, building a greater number of strong international partnerships.

### Task Force on International Collaboration

This task force is organized to focus on the intensification of marketing power in order to facilitate interactions between RU Network Japan members and potential partners abroad.

### Launch of a "Gateway" to Communication

**contact@runetwork.jp**

Any individual, university, or research related organization can access RU Network Japan members to search for a future collaborator.

**Contact: Facilitator's Office**  
National Institutes of Natural Sciences (NINS)  
2F Haku Kanayachi Building, Tsunanomori, Minato-ku, Tokyo 105-0801, Japan  
e-mail: [office@runetwork.jp](mailto:office@runetwork.jp)

英語版ミニパンフレット  
(平成27年度制作)

# ●国際情報発信に関するプラットフォーム整備

(幹事校：岡山大学)

## 英文プレスリリース配信プラットフォーム：AAAS EurekaAlert! Japan Portalの設立と活用

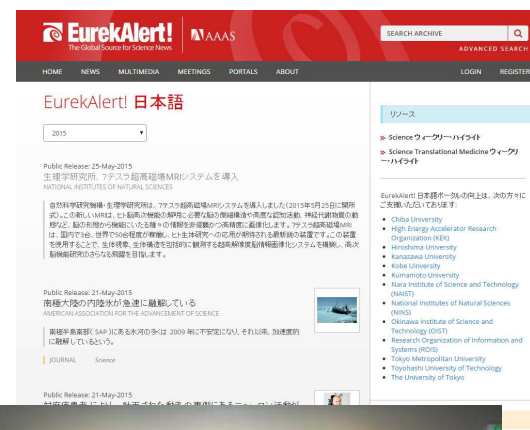
【目的】 AAASが提供する英日でのプレスリリース配信ポータル<sup>①</sup>の設立(2014年11月始動)  
世界の科学記者登録数 1万2千人超  
日本の科学記者 270名超 にプレスリリースを配信

【参加校】 Chiba University  
High Energy Accelerator Research Organization (KEK)  
Hiroshima University  
Kanazawa University  
Kobe University  
Kumamoto University  
Nara Institute of Science and Technology (NAIST)  
National Institutes of Natural Sciences (NINS)  
Okinawa Institute of Science and Technology (OIST)  
Research Organization of Information and Systems (ROIS)  
Tokyo Metropolitan University  
Toyohashi University of Technology  
The University of Tokyo  
Kyoto University  
Osaka University  
Tsukuba University

### 【活動】

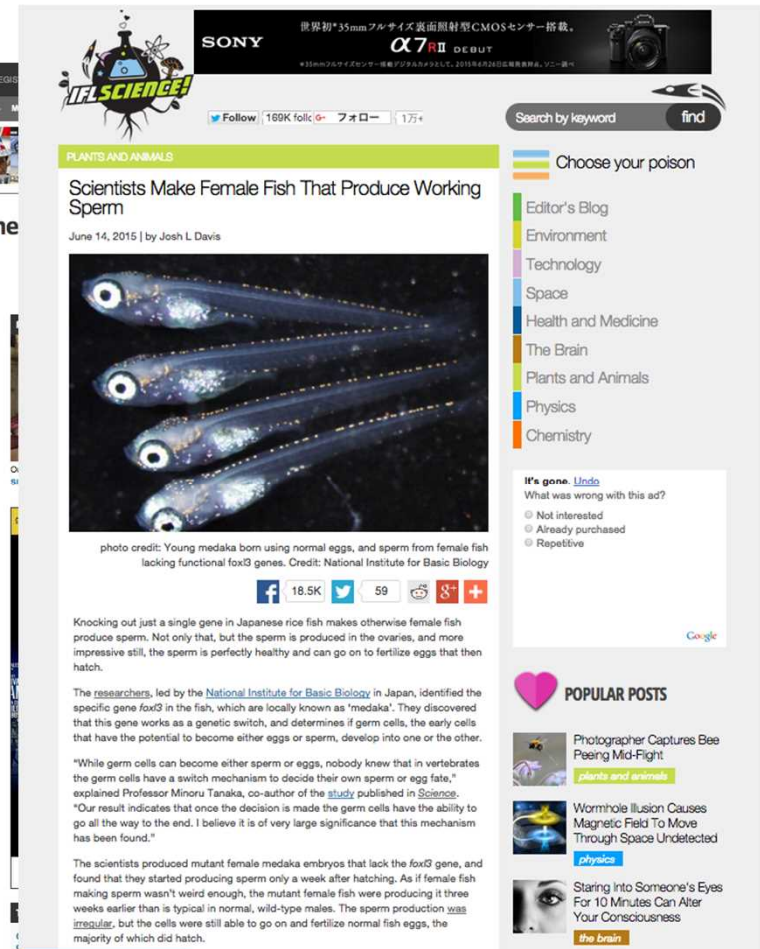
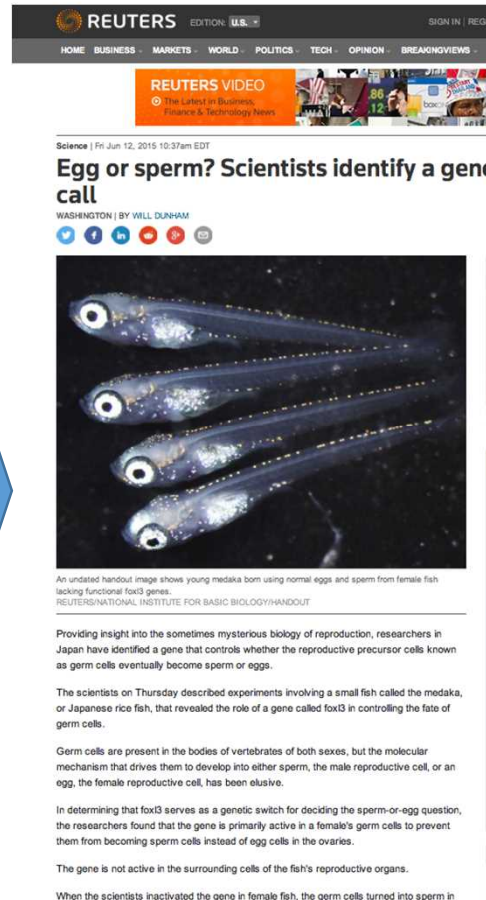
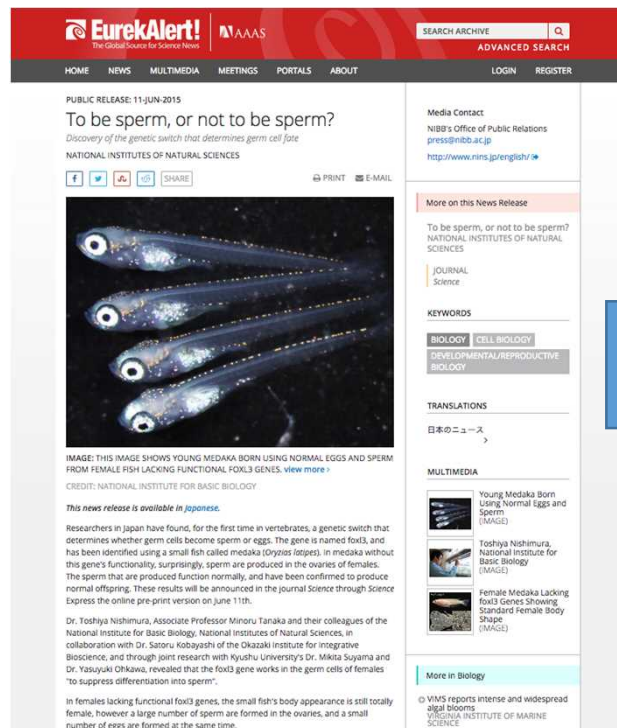
●AAAS 2015 年会にて、AAAS担当者とのミーティングより有効な活用について議論、その他、勉強会・カンファレンス、USERミーティングなど開催。

●Science誌(平成27年7月31日号)及びAAASのホームページにおいて、ネットワークとしての国際情報発信の活動やEurekaAlert!日本ポータル<sup>①</sup>の活動などが記事として紹介され、国際的にも高く評価されている(Science, 31 July 2015:Vol. 349 no. 6247 pp. 488-489)。





# (参考)EurekAlert! による世界配信 全世界の12000人超の科学記者むけに配信→二次・三次転載



基礎生物学研究所からEurekAlert!により配信した記事が、ロイターやIFLSなどで取り上げられた例。

# ●大学ランキング指標タスクフォースの活動（幹事校：岡山大学）

## 『適切な指標で、自組織の研究力強化の推進を！』

### 【目的】

本タスクフォースにおいては、以下にかかげる「大学ランキング指標に関しての基本的考え方」を共有しつつ、その考察を行うことで、大学・研究機関や行政府、ランキング指標作成企業・研究機関などに対して、真に大学評価や研究力強化促進に寄与する提言をまとめることとしている。

### 「大学ランキング指標に関しての基本的考え方」

- ・大学ランキング指標は、単なる“順位ありきの大学・研究機関間の競争”ではない。順位の一喜一憂する必要はない。
- ・大学ランキング指標に用いられている数多くの評価指標の十分かつ、その良し悪しを理解したうえで、大学・研究機関の総合力を測るひとつのベンチマークとして、自組織の研究力強化促進への参考にすることが重要である。
- ・ひとつの大学ランキング指標に依拠するのではなく、さまざまな大学ランキング指標の特徴を理解したうえで、総合的に利活用することが重要である。



2015/10/30

Dear TES Global/Times Higher Education World University Ranking

#### Proposal for Times Higher Education World University Ranking Indicators

This is a proposal to revise the indicators of the THE (Times Higher Education) World University Ranking, so they can reflect the actual situation of a more wide and diverse range of university activities.

It would be important to review the current indicators, particularly regarding the perspective of human resources development. The motivation

### Times Higher Education (THE)世界大学ランキングに関して申入れ（平成27年10月30日）

#### 論文引用指数について

- 1) FWCIだけでなく、citation/facultyを用いてほしい
- 2) 著者数千人以上のキロオサーペーパーは、完全排除ではなく、機関数でcitationを割ってほしい。
- 3) Top10%論文/ facultyを指標に加えてほしい
- 4) non-English journalは、現時点で、引用数評価に相当でなく、外してほしい。

#### 評判指標について

- 5) 評判指標の弁別性は悪いので、全体における割合を減らしてほしい
- 6) とくにアジアランキングにおいては、アジアの大学のみを対象とした評判の取り直しをしてほしい
- 7) 世界的に有名な「総合」大学に評判が偏る傾向があり、補正してほしい

#### 産学連携指標について

- 8) 「産学連携共著論文数」も指標として採用してほしい
- 9) 特許やその使用料も重要である

#### 多様性指標の導入について

- 10) 外国人比率に、エントロピー指標(50%で最大)を使用してほしい
- 11) 男女比率についても重要であり、エントロピー指標を導入してほしい。

## ● カンファレンス(勉強会)開催の開催 (TF等に関連するテーマに関して勉強会を開催)

| カンファレンス、勉強会等                                         | 日時          | 講師                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 参加人数  |
|------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 国際的な研究評価Research Assessmentに関する勉強会                   | 平成26年10月24日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・David Sweeney (英国高等教育財政審議会 研究、教育、知識移転部長)</li> <li>・合田哲雄 (文部科学省 研究振興局学術研究助成課長)</li> <li>・山本進一 (国立大学法人岡山大学 理事・副学長)</li> <li>・Caroline Benton (国立大学法人筑波大学副学長 (国際担当))</li> <li>・村山斉 (東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長／カリフォルニア大学バークレイ校マックアダムス冠教授／ローレンス・バークレイ国立研究所上級研究員)</li> </ul>                                                         | 約100人 |
| 平成26年度第1回カンファレンス「世界大学ランキングと国際情報発信について」               | 平成26年12月17日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Mandy Mok (Qs Asia社最高経営責任者 (CEO))</li> <li>・福崎一郎 (エルゼビア社リージョナルディレクター)</li> <li>・EUREXASS</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                        | 60人   |
| 平成26年度第2回カンファレンス「研究インパクトと大学プロファイリングについて」             | 平成27年2月2日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・林和弘 (文部科学省 科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター上席研究官)</li> <li>・宮入暢子 (ネイチャー・ジャパン株式会社コンサルタント／アナリスト)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          | 約40人  |
| 平成27年度第1回カンファレンス「EurekAlert!を例とした国際科学広報の効果的なあり方について」 | 平成27年5月29日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Brian Lin (AAAS EurekAlert!担当マネジャー)</li> <li>・高祖歩美 (東京大学特任研究員)</li> <li>・Euan McKay (東京大学特任研究員)</li> <li>・名取薫 (沖縄科学技術大学院大学 コミュニケーション・広報ディビジョン・メディアセクションマネージャー)</li> <li>・三代川典史 (広島大学シニアURA)</li> <li>・森田洋平 (沖縄科学技術大学院大学准副学長)</li> <li>・角林元子 (ResearchSEA日本特派員)</li> <li>・David H Kornhauser (京都大学国際・広報担当シニアURA)</li> </ul> | 約60人  |
| 平成27年度第2回カンファレンス「大学ランキング指標の更なる理解とあるべき研究機関の対応について」    | 平成27年9月25日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・山本進一 (岡山大学研究担当理事・副学長)</li> <li>・調麻佐志 (東京工業大学大学院理工学研究科准教授)</li> <li>・Duncan Ross (Times Higher Education (THE) Data and Analytics部長)</li> </ul>                                                                                                                                                                             | 約30人  |

## ●他ネットワーク等との連携・協力

### 他ネットワーク等との連携

- ・ URAシンポジウムでのセッションの開催(北海道大学2014年)
- ・ RA協議会第一回年会にて国際連携TFの活動紹介(2015年)
- ・ タスクフォースの活動やカンファレンス等は、RUNJメンバー校以外にもオープン

例: EurekaAlert!Japan Portalには、RUネットワーク参加機関からだけでなく、東京大学・京都大学・大阪大学などを含むRU11からも参加

#### <お問合せ>

- ・ タスクフォース活動やカンファレンスへの参加
- ・ 情報配信の希望(メーリングリストへの登録)

office@runetwork.jp

